

afimp.

2006年1月号 700円
www.autofashion.com/imp
次号2006年2月号は1月14日(土)発売
afimp and+PLUS9 車種別カタログ
全国書店で絶賛発売中!!

01

記憶に残る、愛すべき
スタイルアップカーを創りたい!!

IAA INTERVIEW!

欧州スタイル
考察!! Part3

JE DESIGN/TECHART
irmscher/MANSORY
RECARO/BORBETetc...

芳醇なるスタイル
アップカーの創り手たち!

注目イベント

フォブシュランクイベント
BMWファミリエ
ユーロステージ岡山
ビーウィズ サウンドコンテスト
EURO CUP2005 etc...

スタイルアップの
賢人たちの



AERO NEW FACE!!
MODES VW GOLF IV
GARBINO MINI CONVERTIBLE
STARTECH CHRYSLER 300C

チューンドカー・パワフル試乗レポート!

NOVITEC GT X-Super6 ALFA GT
APR VW GOLF GTI
THE CHECK SHOP BMW E60



全国スタコン開催中!!
神奈川、新潟、和歌山を掲載!!

タリア・トリ
試乗レポート!

ALFA ROMEO Brera

ドイツからの
NEWS
速報!

エッセンモーターショー2005レビュー!!
超最新作スペシャルカー満載!!



Tuned imp. Impression

NOVITEC GT X-Supero

ドイツにありながらイタリア車を手がけるジャーマンチューナー、ノヴィテック。最近ではフェラーリを手がける派生ブランド、ノヴィテック・ロツソも注目されているけれど、アルファを手がける本家本元も相変わらず刺激的なチューニングを行なっている。

このアルファGTも、そんなノヴィテックの元氣ぶりを感ずる一台だ。

X-Supero (スベロII超越) と名付けられたコンプリートは、全身でアグレッシブなムードを放つてくる。たたずまいから、只者ではない雰囲気が十二分に伝わってくるのだ。

フロントバンパーはスマートなアルファGTより、147GTAのようにどうも猛な野性味を感じさせる、ダイナミックな造形にスポーティなディテールをちりばめたシェイプ。リアも左右4本出しのエキゾーストを取めながら自然にポリウムアップしたバンパーが、低く身構えるような姿勢を強調する。リアゲートに追加されたウイングも、出しゃばり過ぎずフォルムに調和してスピード感を高めてくれる。

そして極付けは、何とガルウイングドアなのである。これによってドアを開けた時の注目度は激しく高まる。こんな落ち着いたボディカラーなら、尚更インパクトは大きいというものだ。

過激なスタイリングに見合っべく、中身にもしっかりと手が入られている。エンジン本体はノーマルながら、過給器で武装しているのである。

走らせてまず感じたのは、そのトルクの強大さ。全域にみなぎる力は、まるで5リッター級のエンジンを搭載しているよう、何というトルク感だ。

しかも、ノーマルに比べて大幅に増強されたトルクによって、ギクシャクして乗りにくいということも一切ない。ルーツタイプやリシオルムタイプのコンプレッサーではダイレクト感に富む反面、MTではスロットルにシビアに反応しすぎてスムーズに走らせるのが難しいこともある。ところが、ノ



伊生まれ独育ち
その美しき野獣は
超越と名付けられた

SPEC

最大出力：337ps/6150rpm
最大トルク：39.6kgm/4950rpm
0-100km/h：5.4秒
最高速度：269km/h
NOVITECコンプレッサー
NOVITECインタークーラー
NOVITECオイルクーラー
NOVITECコンピューター
NOVITEC車高・減衰力調整式スポーツサスペンション
NOVITECステンレスエキゾーストシステム

↑V6の右手には、新たに追加された遠心式のコンプレッサーが装着されている。ノーマルの240ps/29.4kgmを遙かに上回る337ps/39.6kgmを発揮。低域でむずがることもなく、チューンドとはいえ、扱い易い



↑ルーフ上にはルーフエアインテークが備わる。もちろんダミーだがアクセントとしては面白い



↑アルファゲリルの脇から姿を見せるインタークーラー。過給効率アップには必要なアイテム。またオイルクーラーも追加されている



REPORT / 高根英幸 PHOTO / 田村 弥
ノヴィテックジャパン
TEL054・277・0753
<http://www.novitec.co.jp/>

ヴィテックが採用した遠心式のコンプレッサーは小容量で、回転数を高めることにより過給する。すなわち、アクセルに対する反応はルーツなどより緩やかで、ターボより自然なものである。過給を意識せずに低回転から力強く、高回転域でもトルクの落ち込みが少なく、まさにNAのようなフィールだ。

普通のアルファGTのオーナーには悪いが、まるでノーマルのV6エンジンに2リッターに思えるほど、マイルドで扱いやすいクルマに感じてしまう。それでいてXスベア口の室内は快適なのである。アイドリングから3000rpmあたりまでの低音は凄みを感じさせるもの、そこから上では室内に響く排気音は心地良いレベルだ。

その上19インチを履いてさえ、快適な乗り心地を示してくれたのだ。

ただしこのコンパクトなテイストのサスペンションはワインディング向きではなく、さらにブレーキもノーマルのままで、その加速性能に対して明らかに制動力が不足していた。足回りは減衰力調整付きの車高調だから、スプリング交換を含め幅広いセッティングを楽しめる。ブレーキの強化は、ノヴィテックにはセラミック製のディスクを含んだキットも用意されている。

つまり、この美しき野獣には、まだまだポテンシャルは残されているということ。

優雅に、そして鋭く走らせるも、激しくコーナーを攻めるも、すべてはオーナーの意のままなのである。